

# 1 概況

## (1) 気象概況

－気象庁資料からみた、平成27年の月別の気象概況は、以下のとおりである－

**1月** 北日本から西日本にかけて気温が高かった。日本海側では、降雪量が少なかった。東日本太平洋側と西日本では降水量が多かった一方で、沖縄・奄美では降水量がかなり少なかった。

上旬は冬型の気圧配置となる日が多く、特に上旬はじめは強い寒気が南下し、ほぼ全国的に気温が低くなり、日本海側では大雪となった。

しかし、中旬以降は、冬型の気圧配置は長続きせず、低気圧がたびたび本州付近を通過した。寒気の南下は弱く、低気圧の接近に伴い暖かい空気が流れ込んだため、月平均気温は、北日本から西日本にかけて高かった。また、日本海側の月降雪量は少なく、北日本日本海側ではかなり少なかった。低気圧の影響で、東日本太平洋側と西日本では月降水量が多くなり、西日本太平洋側ではかなり多くなった。沖縄・奄美では、低気圧の影響を受ける日は少なく、大陸から張り出す高気圧に覆われやすかったため、月平均気温は平年並みで、月降水量はかなり少なかった。

**2月** 北日本では、気温が高かった。日本海側の降雪量は少なく、北日本日本海側では統計開始以降2月として最も少なかった。北日本では、北海道を中心に暴風雪となる日があった。

日本付近は冬型の気圧配置が長続きしなかった。

北日本では寒気の南下が弱く気温の高い日が続き、月平均気温は高かった。北日本日本海側では、平年より曇りや雪の日が少なく、降雪量は平年比49%と1961年の統計開始以降2月として最も少なかった。一方で、1日から2日にかけてと14日から15日及び27日から28日にかけては、北日本の東海上で低気圧が発達し、北日本では北海道を中心に暴風雪となった。

東・西日本では、上旬から中旬にかけては、冬型の気圧配置が緩んでも下層に寒気が残ったため、気温が平年を下回る日が多かった。日本海に気圧の谷が位置しやすかったため、東・西日本日本海側では平年に比べて曇りや雨又は雪の日が多かったが、降水量は平年を下回り、西日本日本海側ではかなり少なかった。東・西日本太平洋側でも、天気は数日の周期で変わったが、低気圧の影響は小さかったため、降水量は平年を下回り、西日本太平洋側では少なかった。

沖縄・奄美では、上旬から中旬にかけて、シベリア高気圧が東シナ海方面に張り出すことが多く、平年より曇りの日が多く、気温の低い日が続いた。

下旬になると南から暖気が流れ込んで全国的に気温が上がり、東・西日本と沖縄・奄美の月平均気温は平年並みとなった。上旬半ばから下旬はじめにかけては、大陸の高気圧が下層の寒気を伴って日本海に張り出し、気温の低い日が多かった。

**3月** 北日本では3月として1位の高温で、降水量がかなり多かった。西日本日本海側では日照時間がかなり多かった。

日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過したが、上旬は全国的に低気圧や前線の影響を受けやすく、中旬前半にかけて北日本付近で低気圧が発達し、動きが遅くなるが多かった。

1日から2日にかけては、低気圧が本州南岸から千島近海に進み、北日本太平洋側を中心に暴風雪となった。

9日から12日にかけては北海道付近で低気圧が発達し、北日本や東・西日本日本海側では暴風雪となったほか、低気圧に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んだため北日本でも大雨となり、この時期としては記録的な降水量となった。その後は、西日本を中心に高気圧に覆われて晴れる日が多く、西日本日本海側では月間日照時間がかなり多くなった。

また、シベリア高気圧の日本付近への張り出しが弱く、北からの寒気の南下が弱かったことに加え、日本の東海上では高気圧の勢力が強く、北日本を中心に南から暖かい空気が流れ込みやすかった。このため、北・東日本では月平均気温がかなり高くなった。特に北日本では気温の高い日が続き、月平均気温は平年差+2.4℃となり、1946年の統計開始以来3月として1位の高温となった。

**4月** 全国的に気温が高く、西日本ではかなり高かった。西日本日本海側では降水量がかなり多かった。東・西日本太平洋側では日照時間がかなり少なかった。

上・中旬は低気圧に向かって南から暖かい空気が流れ込みやすく、下旬は移動性高気圧に覆われ晴れた日が多く、大陸から暖かい空気が流れ込んだ影響で、月平均気温は全国的に高く、西日本ではかなり高くなった。

上・中旬は北日本から西日本では、日本海を発達しながら通過した低気圧に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んだり、本州の南岸に前線が停滞した影響で、天気の崩れる日が多かった。このため、月降水量はほぼ全国的に多くなり、西日本日本海側ではかなり多かった。

また、東・西日本太平洋側では月間日照時間がかなり少なかった。上旬の日照時間は東・西日本太平

洋側でそれぞれ平年比34%、28%となり、1961年の統計開始以来4月上旬としては最も少ない値を更新した。

一方、下旬は移動性高気圧に覆われ、大陸から暖かい空気が流れ込んだため、北・東日本で気温がかなり高くなり、北日本と東・西日本日本海側で日照時間がかなり多かった。下旬の日照時間は北日本日本海側・太平洋側でそれぞれ平年比160%、158%、東日本日本海側で平年比165%、西日本日本海側で平年比142%となり、1961年の統計開始以来4月下旬としては最も多い値を更新した。

## 5月 全国的に気温はかなり高く、北・東日本で記録的な高温となった。北日本太平洋側と東日本日本海側では記録的な多照で、東日本太平洋側の降水量はかなり少なかった。沖縄・奄美では梅雨入りが遅かった。

低気圧は日本の北を通ることが多く、中旬に台風第6号や低気圧の影響で、全国の広い範囲で大雨となったほかは、本州付近は移動性高気圧に覆われ、北日本から西日本にかけては晴れの日が多かった。北・東日本の月間日照時間はかなり多く、北日本太平洋側では平年比133%、東日本日本海側では平年比139%となり、1946年の統計開始以来5月としては最も日照時間が多かった。また、東日本太平洋側では降水量がかなり少なかった。

沖縄・奄美では、台風第6号の影響で11日から12日にかけて暴風雨となったほかは、中旬の中頃までは高気圧に覆われて晴れの日が多く、中旬の終わり頃になって梅雨前線の影響を受ける日が多くなった。このため、梅雨入りは奄美地方で平年より遅く19日頃、沖縄地方では平年よりかなり遅く20日頃となった。一方、下旬は沖縄・奄美付近で梅雨前線の活動が活発化したため、沖縄・奄美の月降水量は平年並みとなった。

気温は、日本の北を通過する低気圧に向かって南西からの暖かい空気が流れ込んだことや本州付近では日照時間が多かったため全国的にかなり高く、北日本では平年差+2.0℃、東日本では平年差+2.1℃でともに1946年の統計開始以来5月としては最も高温となるとともに、全国154地点中55地点で5月としての月平均気温の高い記録を更新した。

## 6月 九州南部では、記録的に降水量が多く、日照時間がかなり少なかった。西日本では低温で、西日本太平洋側では日照時間はかなり少なく降水量は多かった。沖縄・奄美では、記録的な高温で、日照時間はかなり多く、降水量は少なかった。

梅雨前線が西日本の南岸から東日本の南海上に停滞することが多く、活動は活発だった。このため西日本では月平均気温は低く、月間日照時間は西日本太平洋側でかなり少なく西日本日本海側で少なかった。また、西日本太平洋側では月降水量が多かった。特に、前線が停滞しやすかった九州南部では、月降水量が平年比227%となり、6月としては最も降水量が多く（統計開始は1946年）、月間日照時間はかなり少なかった。一方、梅雨前線から離れた東北地方では梅雨前線の影響を受けにくく、月間日照時間は多かった。東北地方の梅雨入りはかなり遅く、東北南部では26日頃（1951年以降、遅い方からの1位タイ）、東北北部でも27日頃だった。

また、朝鮮半島付近から北・東日本にかけては、上空に寒気が流れ込みやすかった。特に中旬の中頃から下旬のはじめにかけては、北・東日本の上空に寒気が流れ込み、雷を伴った局地的に激しい雨や突風があった。また、北海道日本海側では上旬の前半に低気圧と上空の寒気の影響で大雨となったところがあり、月降水量はかなり多かった。

一方、太平洋高気圧の日本の南から沖縄付近への張り出しが強かったことにより、沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われやすく晴れて日射が強かったことに加えて、南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、沖縄・奄美の月平均気温は平年比+1.8℃と、6月としては最も高温となった（統計開始は1946年）。また、月間日照時間はかなり多く、月降水量は少なかった。なお、太平洋高気圧に覆われやすかった沖縄地方では、平年よりかなり早い8日頃に梅雨明けした。

## 7月 気温は北・東日本で高く、西日本で低かった。東・西日本太平洋側と沖縄・奄美で降水量がかなり多かった。北日本太平洋側では、日照時間がかなり多かった一方で、西日本と沖縄・奄美では日照時間が少なかった。

上旬は、梅雨前線が本州南岸に停滞することが多く、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美を中心に前線や湿った気流の影響で曇りや雨の日が多かった。一方、北日本を中心に冷たい移動性高気圧に覆われて晴れた日が多かった。中旬以降は、日本の南東海上で太平洋高気圧の勢力が強まり、北・東日本を中心に高気圧に覆われやすく、晴れた日が多かった。一方、西日本と沖縄・奄美では、湿った気流が流れ込みやすく、晴れの日が少なかった。特に、台風第9号が10日頃沖縄・奄美に接近し、沖縄・奄美では暴風雨となった。また、台風第11号が16日に高知県に上陸し、17日に日本海に進んだ影響で、東・西日本太平洋側を中心に大雨となった。さらに25日から26日にかけては台風第12号が接近し、奄美地方や沖縄本島地方を中心に暴風雨となった。

気温は、北・東日本では、上旬は北からの寒気の影響を受けて低かったが、中旬以降は高気圧に覆われて高くなり、下旬はかなり高かった。一方、西日本では、上旬は梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多かったため、かなり低く、中旬以降は平年並みで、7月の月平均気温としては2007年以来8年ぶりに低かった。

**8月 沖縄・奄美から東日本太平洋側にかけて降水量が多く、沖縄・奄美ではかなり多かった。北・東・西日本では上旬は高温、下旬は低温となった。台風第15号の接近・上陸により、沖縄・奄美と西日本で暴風雨となった。**

上旬は、太平洋高気圧が本州付近に張り出し、北日本から西日本にかけて晴れて気温が高くなった日が多く、各地で日最高気温が35℃以上の猛暑日となった。旬平均気温も高く、東日本ではかなり高くなった。沖縄・奄美でも太平洋高気圧に覆われ晴れた日が多かったが、台風第13号の影響で7日から8日にかけて曇りや雨となり、先島諸島では暴風雨となった。

中旬は、オホーツク海からカムチャツカの東にかけての高気圧と日本の南海上の太平洋高気圧との間で本州付近が気圧の谷となり、北日本から西日本にかけて低気圧や前線の影響を受けやすかった。沖縄・奄美では、太平洋高気圧の縁を回って流れ込む湿った気流の影響で旬の中頃を中心に曇りや雨となった。

下旬は、非常に強い台風第15号が沖縄・奄美に接近し、25日に熊本県に上陸した後、日本海へ進んだ。沖縄・奄美や西日本では暴風雨となり、各地に猛烈な風と雨による被害をもたらした。石垣島（沖縄県）では23日に最大瞬間風速71.0m/s（観測史上1位の値更新、統計開始1941年）を観測した。また、九州や山口県で猛烈な雨が降ったほか、三重県でも25日の日降水量が500mmを超えるなど、沖縄・奄美や西日本、東日本太平洋側で大雨となった。これらの地方では、旬の後半も前線や湿った気流の影響を受けやすかったため、旬平均気温が低くなり、西日本ではかなり低くなった。一方、北・東日本では、オホーツク海から高気圧が張り出し、北東から冷たく湿った空気が流れ込んだため、気温がかなり低く、太平洋側を中心に曇りや雨の日が多かった。東北太平洋側では、旬間日照時間が平年比19%となり、1964年と並んで少ない方から1位タイの記録となった（統計開始1961年）。

沖縄・奄美から東日本太平洋側にかけては、前線や上旬に接近した台風第13号、下旬に接近・上陸した台風第15号の影響で月降水量が多く、沖縄・奄美ではかなり多かった。

**9月 気温は東・西日本で低かった。「平成27年9月関東・東北豪雨」が発生した。北・東日本日本海側では日照時間は少なかった。**

月の初めから11日頃までは、低気圧や前線が日本付近を通過することが多く、東北地方から奄美地方にかけては、8月下旬から引き続いて、曇りや雨の日が多く気温の低い日が続いた。

9日には台風第18号が東海地方に上陸し、東日本太平洋側を中心に広い範囲で大雨となった。さらに、日本の東海上を台風第17号が北上した影響も加わって、関東地方から東北地方では南から湿った空気が長時間にわたって流れ込んだため、記録的な大雨になり、河川の氾濫など大きな被害が生じた（平成27年9月関東・東北豪雨）。

東日本太平洋側では上旬の降水量が平年比418%、東日本日本海側では上旬の日照時間が平年比36%となり、9月上旬としては1961年の統計開始以来、それぞれ最多及び最少の記録を更新した。

その後は月末まで、本州付近は高気圧と低気圧や前線が交互に通過し、北・東・西日本では、おおむね天気は数日の周期で変化したが、西日本では、中旬は、大陸からの冷涼で乾いた高気圧に覆われた日が多く、気温がかなり低かった。沖縄地方では、台風の影響を受けた日もあったが、月を通して高気圧に覆われて晴れた日が多くなった。

月平均気温は、東・西日本では、上旬に前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多く、中旬に大陸から冷涼な空気が流れ込んだ影響で低く、西日本では上・中旬はかなり低かった。北日本と沖縄・奄美は、平年並みだった。

**10月 北日本は気温が低かった。西日本は記録的多照となった。東日本と西日本太平洋側は降水量がかなり少なかった。**

千島近海で低気圧が発達することが多かったため、北日本には寒気が流れ込みやすく気温が低かった。東日本以西では、月の前半は寒気が流れ込みやすく気温が低かった一方、後半は大陸からの暖かい空気に覆われたため高く、月平均気温は平年並みとなった。

大陸から移動してきた高気圧に覆われることが多く、月間日照時間は北日本太平洋側と東・西日本でかなり多く、北日本日本海側でも多かった。特に、西日本日本海側、西日本太平洋側では、月間日照時間の平年比がそれぞれ132%、137%となり、1946年の統計開始以来10月としては1位の多照となった。また、東日本と西日本太平洋側では降水量がかなり少なかった。

なお、8日から9日に台風第23号から変わった低気圧の影響で北海道地方を中心に大荒れの天気とな

り、北海道オホーツク海側を中心に大雨となったため、北日本の月降水量は平年並みとなった。

また、西日本日本海側では1日に低気圧の影響で大雨となったところがあったため、月降水量は平年並みとなった。沖縄・奄美でも、移動性高気圧に覆われることが多く月降水量は少なかったものの、湿った東風の影響を受けやすい時期があり、月間日照時間は平年並みだった。

#### **11月 全国的に気温が高く、沖縄・奄美では月平均気温の記録を更新した。北・東日本太平洋側と西日本で、降水量がかなり多く、日照時間がかなり少なかった。**

冬型の気圧配置が現れにくく、低気圧と高気圧が交互に通過して、天気は数日の周期で変わった。西日本を中心に、低気圧や前線の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多くなったため、北・東日本太平洋側と西日本で多雨・寡照となり、月間日照時間は西日本日本海側、西日本太平洋側共に平年比73%で、1946年の統計開始以降で最も少ない記録となった。

また、期間を通して、北からの寒気の流れ込みが弱く、さらに南からの暖かく湿った気流の影響で、全国的に気温の高い日が多かった。特に中旬は記録的な高温となり、月平均気温は、東・西日本と沖縄・奄美でかなり高く、沖縄・奄美で平年差+1.7℃と、1946年の統計開始以降で最も高い記録を更新した。一方、下旬には全国的に寒気が南下して気温が低くなった日もあったほか、日本海から北日本を通過した低気圧の影響で北日本では大荒れとなり、北海道では大雪となった。

#### **12月 全国的に気温がかなり高く、日本海側の降雪量はかなり少なかった。ほぼ全国的に降水量が多く、西日本ではかなり多かった。**

日本付近は冬型の気圧配置が長続きせず、低気圧や前線の影響を受けやすかった。寒気の南下が弱く、気温の高い日が続いたため、全国的に月平均気温がかなり高く、日本海側の降雪量はかなり少なかった。特に東日本の月平均気温は平年差+1.9℃で、12月として1位の高温（統計開始1946年）となった。

また、北・東日本日本海側を除き降水量が多く、西日本ではかなり多かった。西日本太平洋側の月降水量は平年比279%で、12月として1位の多雨（統計開始1946年）となった。特に10日から11日にかけては低気圧が発達しながら本州上を東進し、低気圧に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、東・西日本や沖縄・奄美では12月としては記録的な降水量となった所があったほか、東・西日本太平洋側を中心に南風が強まり、各地で12月としては記録的な高温となった。

表1 梅雨入り・梅雨明けの状況（平成27年）

梅雨入り

地域	本年	平年	前年
沖縄	5月20日頃	5月9日頃	5月5日頃
奄美	5月19日頃	5月11日頃	5月5日頃
九州南部	6月2日頃	5月31日頃	6月2日頃
九州北部	6月2日頃	6月5日頃	6月2日頃
四国	6月2日頃	6月5日頃	6月2日頃
中国	6月2日頃	6月7日頃	6月2日頃
近畿	6月3日頃	6月7日頃	6月3日頃
東海	6月3日頃	6月8日頃	6月4日頃
関東甲信	6月3日頃	6月8日頃	6月5日頃
北陸	6月19日頃	6月12日頃	6月5日頃
東北南部	6月26日頃	6月12日頃	6月5日頃
東北北部	6月26日頃	6月14日頃	6月6日頃

注：気象庁資料による（以下の表において同じ。）。

梅雨明け

地域	本年	平年	前年
沖縄	6月8日頃	6月23日頃	6月26日頃
奄美	7月6日頃	6月29日頃	7月4日頃
九州南部	7月14日頃	7月14日頃	7月16日頃
九州北部	7月29日頃	7月19日頃	7月20日頃
四国	7月24日頃	7月18日頃	7月20日頃
中国	7月24日頃	7月21日頃	7月20日頃
近畿	7月24日頃	7月21日頃	7月20日頃
東海	7月24日頃	7月21日頃	7月21日頃
関東甲信	7月10日頃	7月21日頃	7月21日頃
北陸	7月25日頃	7月24日頃	7月21日頃
東北南部	7月26日頃	7月25日頃	7月25日頃
東北北部	7月29日頃	7月28日頃	7月25日頃

## (2) 被害概況

平成26年12月から平成27年1月はじめにかけて、日本付近に強い寒気が南下し、太平洋側でも局地的な大雪及び暴風雪となったこと等により、果樹で果実の損傷等が発生した。

平成27年の日本への台風の接近数は13個となり、そのうち上陸数は最近10年で最も多かった昨年と同様に4個（台風第11号、第12号、第15号及び第18号）となった。これらにより、倒伏、冠水等による被害が発生した。

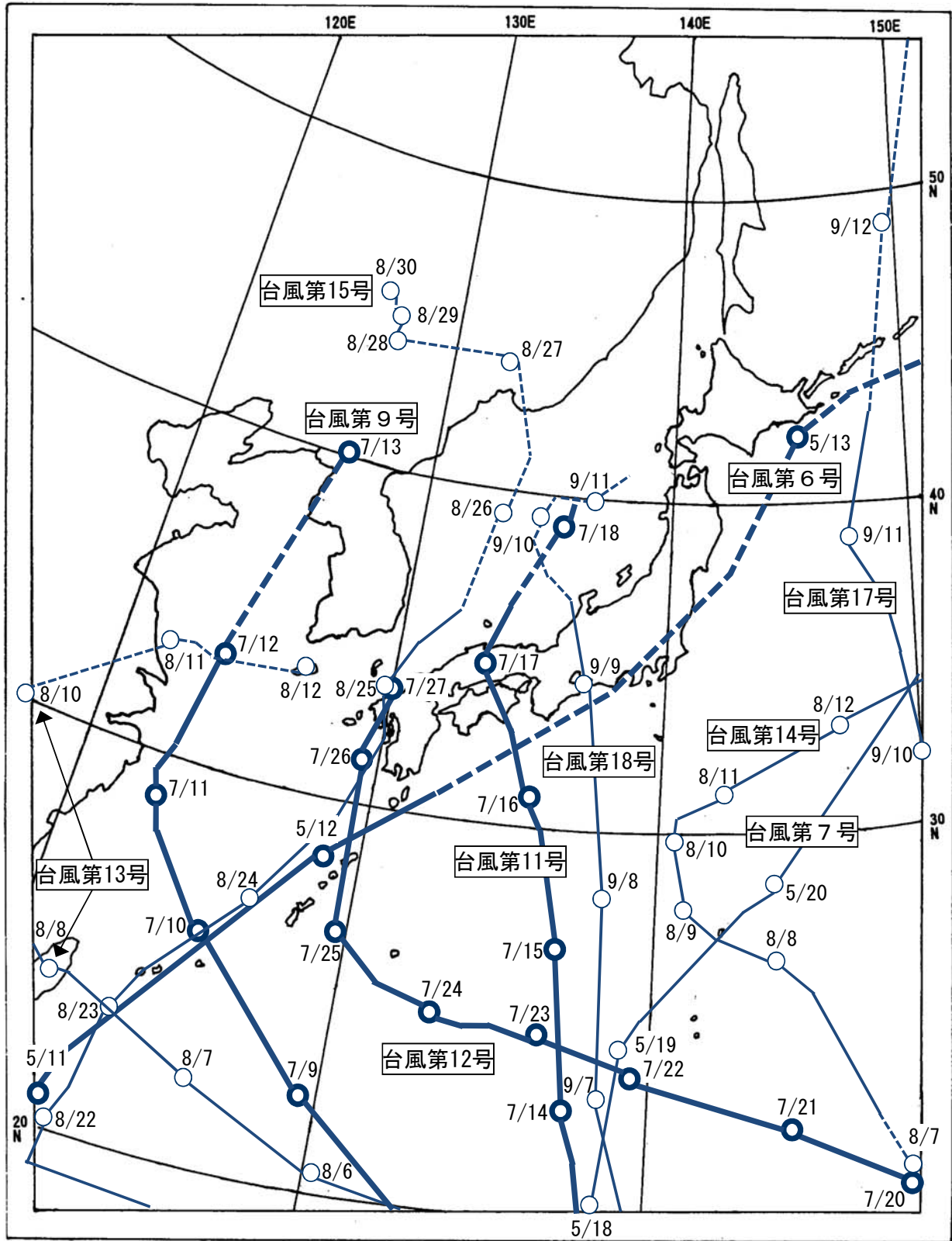
このほか、8月1日及び2日の降ひょう等により、野菜で茎葉の損傷等が発生した。

なお、発生した主な被害は表2のとおりである。

表2 平成27年に発生した主要災害種類別被害概況（総数）

災害種類名	被害発生時期	被害面積	被害見込金額	主な被害農作物	主な被害地域
平成26年12月以降の降雪等	平成26年12月以降	1,380 <sup>ha</sup>	13 <sup>億円</sup>	果樹、野菜、その他農作物	愛媛県、秋田県、山形県 等
台風第6号	5月11日～13日	14,200	29	工芸農作物、野菜、その他農作物	沖縄県、鹿児島県、大分県 等
8月1日及び2日降ひょう等	8月1日及び2日	2,390	22	野菜、工芸農作物、飼肥料作物	群馬県、長野県、栃木県 等
台風第15号	8月23日～26日	162,000	79	果樹、水陸稲、野菜	熊本県、福岡県、新潟県 等
平成27年9月関東・東北豪雨	9月9日～11日	21,300	48	水陸稲、野菜、雑穀・豆類	茨城県、栃木県、宮城県 等

(3) 平成27年に日本列島に上陸・接近した台風経路図



- 注 : 1 経路上の○印は傍らに示した日の午前9時の位置を示す。  
 2 経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧・温帯低気圧の期間を示す。  
 3 気象庁資料から作成した。